# 月刊 あなたにこの本を！ 平成 24 年 1 月号

大阪市立図書館 「あなたにこの本を！」選定委員会

大阪市立図書館が購入した新しい本の中から、図書館員のおすすめの本を紹介します。

…字が大きめ　…中高生にも　…図・写真が多い

※価格のあとの（ ）内の番号は、大阪市立図書館書誌 ID です。

## 可笑しなホテル　－世界のとっておきホテル24軒－

ベティーナ・コバレブスキー　著
松井貴子　訳
二見書房　1995 円　(0012302343)

ジャンル ： 暮らしにうるおいを

カッパドキアの洞窟を利用した「古代穴ぐらホテル」や、オーナー手作りの巨大な木製犬型ホテルなど、世界各地の奇想天外なホテルを迫力ある写真で紹介する。トラベルライターである著者は、実際にホテルを泊まり歩いて取材し、宿泊した感想や、工夫を凝らした内装について報告する。また、個性豊かなオーナーへのインタビューからは、夢のホテルを完成させた誇らしい思いが伝わってくる。周辺の見どころなども記載され、ガイドブックとしても利用できる。〔526.68〕

## 正倉院あぜくら通信　－宝物と向き合う日々－

杉本一樹　著
淡交社　1995 円　(0012369826)

ジャンル ： 歴史・文化に親しむ

正倉院事務所長による正倉院の案内書である。宝庫の性格や東大寺との関わり、時代ごとの権力者の干渉などを豊富な知識で解説し、その合間に職員の仕事ぶりに触れている。宝物の運搬は人の手によることを基本に必ず複数人で行い、新人は先輩に扱いの勘所を教わるところから始める、など普段のぞけない舞台裏を職員の目線で披露する。黙々と働く職員の日常から、宝物を営々と守ってきた人々に思いを馳(は)せることができ、正倉院がより身近に感じられる。〔702.135〕

## 教えて先生！書のきほん

『墨』編集部　編　川口澄子　絵
芸術新聞社　1995 円　(0012326416)

ジャンル ： 知識・教養を深める

この本では、技術だけではなく、知っておきたい書の教養について、7日間の講義形式で丁寧に解説されている。漢字の成り立ちなど文字を知ることから始まり、篆(てん)刻、道具の見方、感性を大事にした鑑賞法、書道教育や書家についてなど、幅広い知識や楽しみ方を紹介する。各分野の第一人者の語りからは、書の持つ豊かさや創造性が感じられ、より深い表現を得るための足がかりとなっている。愛らしく愉快なイラストも理解の助けとなっており読みやすい。〔728〕

## 民意のつくられかた

斎藤貴男　著
岩波書店　1785 円　(0012341045)

**ジャンル ： 現代社会を見つめる**

民意とは住民の意思のことだが、どのように形成されるのか。原子力政策の場合は、国の豊富な宣伝費で、広告代理店が「原子力は安全」とする広告を作成し、マスメディアが収入のために掲載することで推進の民意が作られた。更に著者は取材を進め、五輪招致や道路政策においても民意が誘導されていた事実を明らかにする。近年、民意が重視されているが、本書はその形成過程の実例を数多く示し、民意が意図的に操作されている危険性について検証する。〔361.5〕

## 驚くべき雲の科学

リチャード・ハンブリン　解説　村井昭夫　訳
草思社　2100 円　(0012373133)

**ジャンル ： 自然･環境を考える**

世界中で撮影された不思議な形の雲の写真集。宇宙や航空機、大草原や海上などで見られる雲は、ときに神秘的で、ときに不気味であるが、著者はそれに冷静な科学の目を注ぐ。空に大きく開いた雲の穴や、何層も重なる円盤のような雲、紅色に輝く真珠雲などが、どのような条件下で発生したのかが、ひとつひとつ丁寧に解説される。ふだん見慣れた雲とはまったく違う表情を見せる造形の妙に、自然の奥深さを感じ取ることができる。〔451.6〕

## 心のケア　ー阪神･淡路大震災から東北へー

加藤　寛、最相葉月　共著
講談社　798 円　(0012369791)

**ジャンル ： 知識･教養を深める**

本書は、ノンフィクションライター最相氏による、精神科医、加藤氏へのインタビュー集だ。東北の被災地で活動する人に届けたいという著者二人の思いが込められている。阪神･淡路大震災以降、取り組み続ける心の傷の治療や研究をもとに、災害にあった人の心の変化や、専門的な療法、ボランティアができることなどが具体的に述べられていく。何もしなくとも7割はやがて治る、という医師の言葉から、人の心の強さとケアの大切さについて考えさせられる。〔493.74〕

## 日本の音

コロナ・ブックス編集部　編
平凡社　1890 円　(0012338616)

**ジャンル ： 暮らしにうるおいを**

春にしとしと降る「春雨」の音、浅瀬を流れる川の「瀬音」、着物の裾が擦れ合う「衣擦れ」の音など、日本には様々な音がある。本書は、浮世絵、俳句、短歌、エッセイなどの表現から音の響きを味わう。表現者が持つ、鋭敏で繊細な感性や美意識が、様々な言葉や絵画、工芸品で表され、音に雅を感じ、具象化してきた歴史が垣間見える。夕立の降る様を描いた広重の作品ほか、今にも音が聞こえてきそうな巧みな表現力に驚き、思わず耳を澄ませてみたくなる。〔760.4〕

## なぜ「烏(からす)」という漢字は「鳥」より一本足りないの？　ー生き物の漢字がすぐ覚えられ、生き物の神秘も発見できるー

蓮実香佑　著
主婦の友社　1260 円　(0012353250)

**ジャンル ： 知識･教養を深める**

身近な生き物を示す漢字には、その特徴や印象をよく表しているものが多い。例えば、カラスは真っ黒なので、顔の中にある目の部分が見えないため、鳥の顔の目を表す一本棒をなくして「烏」となった。また、モミの木は高く縦に伸びて大木となることから「樅(もみ)」の字となったという。農学博士でみちくさ研究家という著者の解説で、生き物の生態と漢字の成り立ちの関連性がよくわかり、楽しく漢字を覚えられる。誰かに話したくなるような知識が満載だ。〔811.2〕